

CENTER NEWS 2009. NO.280 12



協同組合 関西地盤環境研究センター

表紙説明

大阪市内、安治川を横断する安治川トンネルの写真（西九条側）です。
（昭和19年9月に開通 延長86m）表紙説明については本文にて。

上 段 : 歩行者・自転車専用トンネル

下段左上: 歩行者トンネル入り口

下段右上: 大阪市西区 九条側

下段左下: 大阪市此花区 西九条駅側正面の写真

下段右下: 大阪市西区 九条側正面の写真

(山岸 記)

目 次

理事就任の御挨拶	藤井 勉	1
10月定例理事会		3
10月主な会議・会合・行事		4
組合員技術者紹介コーナー(第67回)	川上 正敬	5
守口移転物語 第10回 守口試験室解体		7
世界の地盤を楽しむ	吉田 孟弘	8
第1回「It asks the professional!!」後半		13
【アフター5 ワイガヤ広場】開催報告(N o2)	中山 義久	18
第3回ケータイフォトコンテスト募集		19
表紙説明	山岸 正志	20
編集後記		21

理事就任の御挨拶



(株) エイト日本技術開発
取締役常務執行役員関西支社長 藤井 勉

ご挨拶が大変遅くなりましたが、5月の総会で理事に就任いたしました(株)エイト日本技術開発の藤井と申します。

当社の技術顧問である、前三木副理事長の後任であります。不慣れであり皆様方に、ご迷惑をお掛けする事も多々あると思いますが、精一杯、当センターの発展に寄与したいと思っておりますので、今後とも宜しくお願い致します。

私自身、今年の6月に10年振りに関西に帰ってきましたが、以前と比べ社会情勢を含む環境が大きく様変わりし戸惑いが多い毎日ですが、皆様方と一緒に頑張りたいと思っております。

8月末の政権交代により政策の大転換が図られ社会資本整備にも大きな変化が生じ公共事業の削減に加え、昨年秋以降の景気後退が追い討ちを掛け、かつての建設業界の活力は大きく後退し我々建設業界に携わるものにとっては、大きな逆風が吹いています。

しかし、昔から「ピンチはチャンス」と言われる様に、本当に必要な事業や仕事は必ず生き残っていくと思っております。

当センターは物理・力学・岩石試験や環境・水質・土壌分析等、建設事業の基礎となる分野を支え近畿のエキスペートとして30年の永きに渡り地域に貢献された事を考えれば、社会に必要とされ必ず生き残る組織だと信じています。

このような時代にこそ、一人一人がモチベーションを高め自分の仕事に誇りを持って、次世代に技術を伝承することが大切だと考えています。

私の拙い経験で大変僭越ですが、最近、考えている行動指針は下記の5点ですが、少しでも賛同して頂きセンターの皆様の参考になれば幸いです。

- ①「自分の仕事は自分で取る」決意で行動する
- ②「社内外の情報と資源を最大限に生かす」
- ③企業の利点を生かし「情報の共有により総合力を発揮する」
- ④「自分の顧客を増やす」
- ⑤顧客のニーズを上手に引き出す

「言うは易く行なうは難し」ですが、少しでも実行できるよう研鑽していきたいと思っております。昨今です。

取り留めのない話しになりましたが、センターの運営と更なる発展に貢献する所存で御座いますので、ご指導、下鞭撻を重ねてお願いし、ご挨拶に代えさせていただきます。

最後に、西堀栄三郎先生の「技士道」を紹介させていただきます。

技士道 15カ条

1. 「大自然」の法則に背いては何も出来ないことを認識する。
2. 感謝して自然の恵みを受ける。
3. 論理的、唯物論的になりやすい傾向をもつ したがって、特に精神面に向上するよう精進する。
4. 技術の結果が未来社会、および子々孫々にいかに影響を及ぼすのか、公害、安全、資源などから洞察予見する任務を負う。
5. 企業の発展において技術がいかに大切であることを認識し経済の影響を考える。
6. 常に顧客指向であらねばならない。
7. 倫理に背く目的には毅然とした態度で臨み、いかなることがあっても屈してはならない。
8. お互いに「良心」の養育に努める。
9. 創造性、特に独創性を尊び、科学・技術の全分野に注目する。
10. 勇気を持ち、技術の発展に精進する。
11. 強い「仕事愛」をもって常に精進する。 骨惜しみ、取り越し苦労を戒め、困難を克服することを喜びとする。
12. 常に注意深く、わずかな異変、差異も見逃さない。
13. 責任転嫁を許さない。
14. 常に楽観的で、「災い転じて福と為す」の諺のように失敗を恐れず。 それを成功にもっていく術を身につけなければならない。
15. 何事をなすにも「仁」(思いやり、いつくしみ) の精神で、他の技術の携わる者を尊重して、相互援助の実をあげる。

組合員技術者紹介コーナー（第67回）



所 属：株式会社 ヨコタテック
氏 名：川上正敬
生年月日：昭和48年5月14日
出 身 地：兵庫県

株式会社メーサイの富島さんからの紹介で技術者紹介させていただきます株式会社ヨコタテックの川上と申します。

技術者紹介のテーマは何でも良いとのことですが、何でも良いと言われるとなかなかテーマが浮かんでできません。そこで、今回は私の趣味についてお話しさせて頂こうと思います。

自分で言うのもなんですが性格上熱しやすく冷めやすいタイプのように、興味があれば何でも初めてしまう性格です。会社では飽きっぽいなどと言われますが、一応納得のいくところまで突き詰めるのが私のスタイルです。今までの趣味は車いじりから始まり、釣り、自転車、クワガタの飼育、ゴルフなどなどいろいろ挑戦しました。今回は今年の夏までかなりハマったクワガタムシの飼育についてお話したいと思います。

皆さんの中にも子供のころ山でカブトムシやクワガタムシを取りに行かれた方も多いたと思いますが、オオクワガタにはなかなかお目にかかることは少ないと思います。実際、私もノコギリクワガタやヒラタクワガタなどは採取したところはありますが、オオクワガタは見たことがありませんでした。特別オオクワガタが欲しかったわけではなかったのですが、3年前にたまたま仕事関係の知り合いの方からオオクワガタの成虫を頂いたのがきっかけで飼育することとなりました。小学校以来のクワガタ飼育なので飼育方法がわからず、とりあえず図鑑と飼育方法の本を買って飼育を開始しました。飼育し始めると飼育だけでは満足せず、産卵させて増やしてみようと思いブリーダーに挑戦しました。これが落とし穴の始まりでした。

初めの1年目はうまく交尾が出来ず産卵に失敗し断念。次こそはと思いインターネットのオークションで雄と雌を購入し再チャレンジ。すると2年目に60匹の幼虫と出会うことができました。さてこの幼虫をどうすれば良いのか・・・再度インターネットで調べると一匹ずつ菌糸ビンに入れて飼育する方

法が良いとのことで、早速その菌糸ビンを60個購入しました。(これが結構な金額になるんです)。菌糸ビンとはクヌギやコナラの木くずにキノコの菌を合せたもので、クヌギ等の木の中の飼育よりも短期間で成虫にすることができる飼育方法です。(通常木の中では2~3年で成虫になりますが、菌糸ビンを使用すると1年程度で成虫にすることができます。)

菌糸ビンの飼育には温度管理や幼虫の大きさによって菌糸ビンの大きさを変えていかなければいけません。これが結構大変で、費用と労力を費やすのですが、菌糸ビンの中で蠢くか弱い幼虫の成長していく姿を見ているとなんだか自分の子供の成長(ちょっと大げさですが)を見ているようでうれしくて、労力や費やした費用の事を忘れるほどでした。早く成虫にならないかと願いながら瓶生活11カ月を過ぎたころ、幼虫から蛹になるオスの姿を見てビックリ!まるでエイリアンのような容姿!でもカッコイイ。

そんなこんなで無事オス26匹、メス34匹が成虫になり、私は達成感と満足感で一杯になりました。そんな私の姿を見て嫁は「いい加減にして」と言いますが、私の場合、達成感を得られればそれでOKなのです。その後、成虫となった私の子供達(クワガタ虫)は会社の人や知人のもとへ旅立ち、今でも可愛がっていただいていると思います。

今回の飼育チャレンジは飼育材料等の莫大な金額が家計を圧迫するものでしたので嫁にはかなり不評でしたが、それでも何かに熱中できることの素晴らしさは良いものだと思います。これからも色々熱中出来るものを探してチャレンジしていきたいと思います。当然、仕事に関しても同じ気持ちを持って……

次回紹介させていただく方は、株式会社関西地質調査事務所の永田静香さんです。永田さんとは以前現場でご一緒させていただいた経緯があり、今回の依頼に対して快く引き受けていただきました。それでは永田さんよろしくお願い致します。

守口移転物語 第10回

守口試験室の解体(誕生から終焉まで、小さな歴史を添えて)

守口移転物語は平成20年8月号より数えて9回目、今回をもって終了といたします。当センター発祥の地の歴史が終わることは感慨深く、思い出が走馬燈のようにぐるぐる浮かんでいきます。守口試験室を長らくご愛顧頂き誠にありがとうございました。

守口試験室に係わる小史

西暦	年号	年	月	出来事
1980	昭和	55	12	建設省設立認可を受ける
1981	"	56	4	守口市大日町1丁目で地鎮祭を挙行
1981	"	56	10	建物の完成、土質試験業務開始
1995	平成	9	5	摂津試験所完成に伴い、守口より機能の一部移転
2007	"	19	7	守口 JCT 設置に伴う地元説明会開催、移転への第1歩
2009	"	21	6	阪神高速(株)に守口試験室を売却
"	"	"	9	摂津試験所増改築工事完了、守口から移転完了
"	"	"	10	守口試験室解体完了

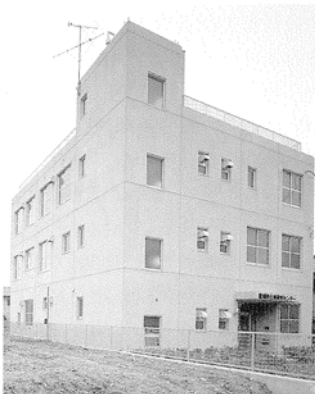


写真-1 開設時の姿



写真-2 解体の準備始まる



写真-3 解体が進む



写真-4 更地に生まれ変わり

世界の地盤を楽しむ（前編）

アース技研株式会社

吉田孟弘

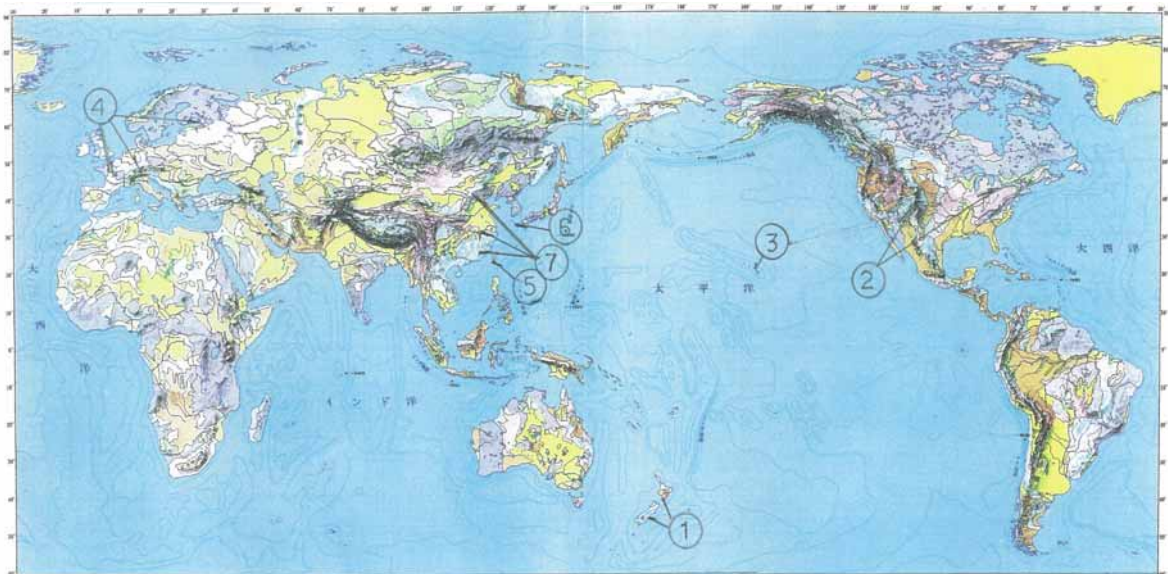
近年、世界の一部を旅する機会に恵まれ、地質屋の視点から地盤状況を観察し、旅の楽しみが倍増しました。

将来は、旅の途中で機内から見ることの出来た眼下に広がったロッキー山脈の地形とこの中にあるイエローストーンなどの U.S.A 国立公園、湖の多いフィンランドのヘルシンキを訪れてみたいと思っています。

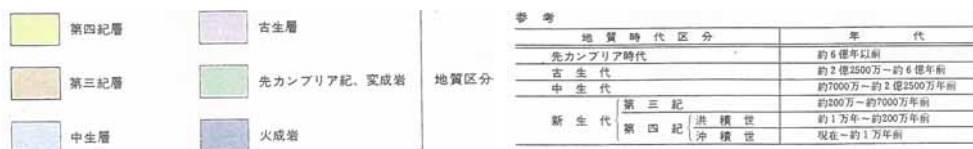
また、地盤工学的に、関心が湧くのは砂漠地帯に構築されたラスベガスの建物や周囲の戸建住宅の基礎工と安全対策です。

世界地図を広げていつか訪れてみたいと場所に思いを寄せています。

【旅は私にとって精神の若返りの泉だ：アンデルセン】



図中の数字は紀行地を示す



世界の地質図

“世界地図”（国際地学協会発行より）

① New Zealand

写真-1

サザンアルプス山脈の Mt. Cook (3700m) 氷河に覆われた山麓の湖水はエメラルドグリーン色。

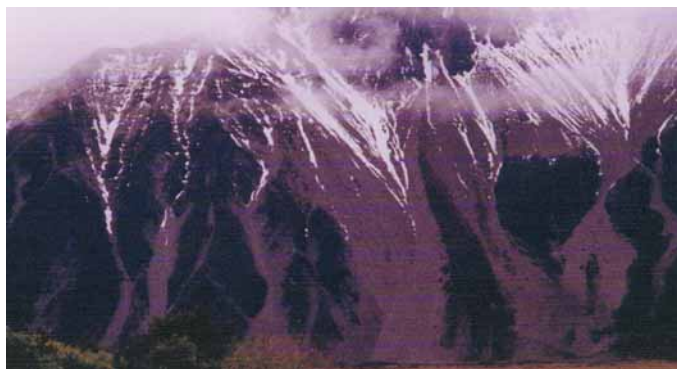


写真-2, 写真-3

広大な扇状地形。

日本なら住宅団地の計画も。

クライストチャーチは中生層が主体。

写真-1



写真-2



写真-3

写真-4

オークランドの Lake Taupo
フォカレワレワ間欠泉。
火山活動の激しい地域で
露出する岩盤は地熱で熱い。
オークランドは全体に火山地帯で
クライストチャーチ(南島)と
異なっている。



写真-4

② United States of America ～ Canada

写真-5

機中より眼下に広がるロッキー山脈
(4000m 級)。
この山脈の中にはイエローストーン・
バットランズなどの国立公園がある。
岩質は主に中生層。



写真-5

写真-6

グランドキャニオンを流れる
コロラド川。



写真-6

グランドキャニオン



写真-7



写真-8



写真-9

写真-7, 写真-8

石灰岩・泥岩・砂岩の互層が水平方向に分布し、浸蝕地形を形成。下方にコロラド川が蛇行して流れている。

写真-9

早起きして朝日に輝く岩肌を撮影。

写真-10

ラスベガス郊外の住宅地。

写真-11

ラスベガスの夜景。

砂漠地帯に建設されたラスベガスの建物の基礎？

郊外の住宅の液状化対策？



写真-10

写真-12

ナイアガラの滝。

ナイアガラの滝は年々浸蝕によって後退し、いつかは消滅するとのこと。



写真-11



写真-12

第1回

「It asks the professional !!」 後半

第1回目の professional は、関西大学 准教授 西形 達明先生です。

【プロフィール】

名前：西形 にしがた 達明 たつあき

所属：関西大学

環境都市工学部都市システム工学科

専門分野：補強土、斜面安定、切土、盛土、
土の動的性質、まさ土、不飽和土、浸透破壊、

廃棄物処理場、ジオテキスタイル、ジオメンブレン、地盤改良

趣味：サイクリング etc



石垣修復の概要

貴重な文化遺産である石垣遺構の中には、築造から長い年月を経て老朽化が進行し、崩壊の危機に直面しているのものも少なくありません。しかし、近年になって歴史遺産の保存と活用の意識が高まり、城郭石垣についても数多くの修復事業が実施されるようになってきました。

城郭石垣は歴史的文化遺産であると同時に、市民のための社会基盤施設としての機能も有しています。後者の立場からみると、たとえ文化遺産といえども常に安全で安心して使用しうるものでなければなりません。すなわち、石垣に劣化や変形が進行すれば直に工学的に最善の方法をもって修復する必要があるのです。

一方、前者の立場からみると、「修復」ではなく「復元」という考え方が主になります。すなわち、新たに手を加えるのではなく、元の状態に戻すことが基本であり、変形の進んだ石垣では、元からある石を全く同じ位置に再利用して積み直しを行うことで元の状態に戻すことを考えるのです。工学技術者の立場から考えると、元に戻すこと（復元）だけでは将来に同じ原因による不安定性が生じる危険性があるため、ときには構造と材質に至るまでの根本的な修復処置を考えます。また、「文化遺産といえども過去に何度も修復が施されている事

例が少なからずあり、その時々には当時の最善の方法で修復がなされているはずである。」などと考えるのです。

この問題は「工学」と「考古学」や「歴史学」との学際的な問題として、今後お互いに協力しあって冷静に考え対処していかなければならない問題です。

学問の違い

委員「先ほどのエジプトの話(センターニュース 11月号掲載)と関連するのですが、石垣の修復というのは、言葉のとおり造った当時または現状に修復するのが目的だと思うのですが、今後の地震にも耐えられるような丈夫なものに強化補修することなのでしょうか？」



先生「今は、“文化財” だけどその当時は“石垣” なんですよね。考古学を専攻する方たちは当時の石垣を忠実に再現しようとする。当時といっても過去に何度も手が加えられている訳ですから、どの時代を指すのかが分かりにくいですが…。一方、多くの人が集まる場所なので、インフラとして考えれば、安全性を高める必要がある。個人的には、そのときの最適工法でより丈夫なものにするのがよいと思うのですが…。そのことについて、考古学の先生と議論をしたことがあります。文化財であるかぎり後世までその形のままで保存するのが原則であるという説明を聞いて納得するしかなかったです。(笑)」

委員「学問の違いですね。」

先生「そうですね。」

委員「この前、静岡で地震があり、駿府城の石垣が崩れましたよね。あれは専門家からみて何故崩れたと思いますか？」

先生「現場へ行ってないので何とも言えませんが、行った方の話では、石垣に、ぐり石が非常に少なかったそうなので、そ



れが原因だったかもしれません。ぐり石の役目は、石垣間相互の緩衝効果や動的な外力を受けたときに安定効果があるので、ぐり石が少ないと崩れやすくなるのかもしれません。」

実物大実験！！



先生「間組さんと共同実験で、実物大の石垣を作成し、それに地震に相当するエネルギーをかけた振動を与えてみる実験をしました。この実験に1週間かかりました。」

委員「大きな加速度を与えたとき石積みはどのような動きになったのですか？」

先生「入力加速度が、800galを超えると石垣が個別の動きになり、上から2番目の石垣が大きく動き出し安全を考えて実験を止めました。400gal程度までは石垣全体で動くが、600gal以上になると石が個々に動き出すんです。」

委員「事前に予想していたものと、この実験で一番違っていたことは何ですか？」

先生「事前に個別要素解析やFEM解析はしていたのですが、三次元的に石が個別に違う運動をする点が、解析結果とは大きく異なっていました。」



委員「事前の予想と実験結果の最も違っていた点は何ですか？」

先生「三次元的に石が個別に違う運動をすること、また、一旦石が動き出すと石と石はすべるように動き出す状況は非常に興味深かったです。」

委員「この実験をして良かったことは？」

先生「実物大の石垣を用いて実験できたことですね。また、間組のプロ（技研）の方たちに実験に用いるフレームから振動台の操作、計測等の実施していただき、またアドバイスなどもいただけたことが良かったですね。」

大学の現状



委員「最近の大学や学生についてお聞かせいただけますか。特に、土木系の現状はどのようなのですか？」

先生「私の仕事は年々忙しくなり、年とともに余裕がなくなっています。と言っても、学生への指導・教育や研究が大変になってきたのではなく、いわゆる雑務、事務処理や会議が多くなっているのです。」

委員「世に言う、先生の雑務過多が大学でもあるということですね。ご苦労様です。ところで、学生はどうですか？」

先生「学生の質が大きく変わりました。名称が都市システム工学科ですから、土木系とは限らないのです。入学する時から、基本的に土木志望ではない子がいます。本来は土木以外のことをやりたい学生が入学するため土木を選んだにすぎない。この現象を学校として経営的に必要と考えています。土木に夢を抱いて入学してきた昔の学生とは、目的意識が大きく違い教え難くなっている。また、卒業後の進路も多様化していて、ゼネコン等土木系の求人があっても応募者が少なく、申し訳ない結果になってしまう場合もあり残念です。」

委員「土木は、人類とともに不滅です。厳しい社会環境ですが、未来のために土木を目指す有能な人材を一人でも多く育てて下さい。」

最後に・・・

土木の将来像

委員「最後に、最近の我々業界に対して、先生のイメージをお話いただければ幸いです。」

先生「業界自体は、非常に厳しいですが重要な社会基盤整備に携わる仕事だと思います。学生にも話をしているのですが、この業界に進む人が少ないのが現状です。しかし、後世にも土木は必要な業界です。今の子供に土木のすばらしさ、仕事の面白さを教えていき活気ある業界にしていきたいと思います。」



委員「本日は、大変お忙しいところ貴重な話をありがとうございました。」



【アフター5 ワイガヤ広場】開催報告 (No. 2)

第2回のワイガヤ広場(11月20日金曜日午後5時～)の報告をいたします。はじまるまで、第1回のように多数の盛会になるのか心配でなりませんでしたが、開けてびっくり、外部の方(若い方3名と他3名)を含み、20数名の参加があり、まずは一安心でスタートしました。

前回からの課題「飽和砂のUU試験で $\phi=0$ 」について、センターへの宿題であった豊浦標準砂を用いた実験結果から議論がはじまりました。実験結果(密詰めとゆる詰めの2種類)としては第1回で広場管理人がお示しになった、 ϕ が出たものと同様な結果が得られました。たぶん実験は間違っていないだろうとの大体の意見でした。ほどなくして西田一彦顧問の飛び入り参加があり、先生の長年のご経験と研究成果のプチ講義があり、 ϕ が出ることにするひとつのヒントとして、三軸に用いる砂の形、大きさ、かみ合わせに係わっていることを教えて頂きました。このヒントをもとに次回は砂の代わりにガラスビーズで実験します、次回に結果報告したいと考えております。

今回のご馳走がまたよかった。G・LのK様の韓国料理4品(テンプラ2種、春雨炒めもの、チゲ肉じゃが、キムチ、これらがまた「うまい」、「豪華」、「たくさん」とおいしい焼酎の差し入れがあり、とてもにぎやかで気持ちが良い会合となりました。K様、おいしい差し入れ、誠にありがとう御座いました。

またまた広場の開催状況を写真に取りましたのでご覧下さい。元気のでるワイガヤ広場に皆さんぜひお立ち寄り下さい。次回の開催日時を下に記載します。



写真-1 熱い議論とごちそう



写真-2 ワイガヤ広場で元気になるぞ!!



次回： 開催場所：未定 メール・FAXでお知らせいたします。

開催日時：平成22年1月 開催日未定 17時～(第3回)

連絡先 Tel:06-6827-8833 E-mail: jyoho@ks-dositu.or.jp

参加費：¥500/人(ビール代 つまみはセンター供出)

(文責 広場管理人代理 中山)

第3回ケータイフォトコンテスト テーマ“秋”

仕事場や旅先での一コマ、プライベートでの出来事、メッセージを伝えるワンショットなど、ケータイフォトに粋な題名を添えて応募してみませんか？

センターニュースでは、組合員の皆さんが携帯電話で撮影した写真を募集し、フォトコンテストを開催しております。

機材の性能や技術の差が出にくいケータイフォト限定なので、素人の方でも入選が狙えます。なお、入選者には豪華賞品？を用意していますので、奮ってご応募ください。

[応募方法]

携帯電話で撮影した写真データに下記の事項を必ず書き添えて、メール「E-mail : [jyoho@ks-dositu.or.jp](mailto: jyoho@ks-dositu.or.jp)」にてご送信ください（お一人様の作品は1点にてお願いします）。

- ① 題 名
- ② 撮影した組合員の会社名と所属
- ③ 撮影者氏名（ペンネームにて掲載）
- ④ 連 絡 先



こちらの QR コードからも
申込できます

[〆切]

平成 21 年 12 月 14 日（月曜日）午後 5 時迄 です。

[注意事項]

ご応募頂いた写真は HP でも公開することがありますので予めご了承ください。また、人物・美術品・写真等、著作物もしくは肖像を作品に使用する場合は、予め著作者や被写体の方などから事前の使用許諾・認証を得た上でご応募ください。

編集後記

今年も残すところ後 1 ヶ月となり、日に日に朝晩の冷え込みが身にしみる季節となりました。特に朝、冷えきった車に乗り現場に向かう際に、エンジンが暖まるまでの数分間、車内が極寒地獄と感じます。

最近、車で移動する際に目的地までの所要時間がどのぐらいかかるのか考える事が多いです。高速道路を主に利用するような目的地である場合の所要時間はある程度予測はできますが、一般道や市街地を通過しなくてはならない場合や毎日渋滞が予測される場合は所要時間のとらえ方が異なると思います。一般的にカーナビの初期設定では、一般道の平均速度を 30km/h として計算される場合が多いようです。平均速度が 30km/h というのはトップスピードが 50~60km/h の渋滞のない昼間の市街地走行程度らしいです。ちなみに、平均速度が 35km/h になると信号の少ない市街地の走行で良く流れている状態、平均速度 40km/h になると未明または早朝の走行で信号がたて続けに青で通過できたときの郊外の走行状態であるようです。一般道で平均速度を 50km/h (最高速度 60km/h を超えないで) にするには名阪国道のような自動車専用道路でないと対面通行や坂道、低速車の追い越しがあつて難しいと思われます。では、みなさんは目的地まで一般道の走行距離が 60km となる場合、2 時間かかるとして計算されるでしょうか？一度でも行った事のある場所であれば、信号や交通量、走りやすさで目安の時間が把握できますが、初めて訪れる場合、どうでしょう。私の場合は+ α の時間(心のゆとりを持たせるため)をさらに加えて考えてしまいます。意外と+ α の時間が功を奏することもあります。

上記の平均速度は法定速度での話です。時間短縮のためにスピードの出し過ぎにはくれぐれもご注意ください安全運転してください。

年末までにやらなければならないことが多すぎて忙しいかと思いますが、新型インフルエンザおよび季節性のインフルエンザに加えて忘年会等の飲み会で体調を崩さないよう頑張りましょう。

(藤元 記)

表 紙 説 明

大阪市内、安治川を横断する安治川トンネルの写真（西九条側）です（昭和19年9月に開通 延長86m）。

安治川トンネルとは、大阪市此花区の西九条駅～大阪市西区の九条へぬける為に安治川の河底を横断したもので、川の兩岸にある建物（写真参照）のエレベーターで地下へ下り、歩行者・自転車専用トンネルを通り、再度エレベーターで地上へあがるつくりです。トンネルは川の底にあるため、天然のエアコンが効いて、夏は涼しく冬は暖かく、通行中は一時的に気分が寛げます（本人確認）。

このトンネルは、日本初の沈埋工法のトンネルで、トンネルを設置する河底にあらかじめトレンチ（溝）を掘削し、陸上部で製作したトンネル躯体を沈め水圧を利用して接続を繰り返し、建設したようです。

完成当初は車両用エレベーターもありましたが、安治川上下流の道路網が整備され、通行量の増加によるトンネル内の渋滞や排気等の問題もあり、（トンネルをスロープで渡る計画もあつたが、地元住民の反対にあつたようである。）昭和52年2月に車両は通行中止となりました。なお、現在も、車両用エレベーターの名残がみられます。

現在、歩行者・自転車専用トンネルは一日6000人程度の人が利用し、建物横に狭い階段もあり、24時間利用可能で、トンネル内でも、携帯電話が使えます。

現在はトンネルの東側に、阪神なんば線の鉄橋が渡っています。

国内でも珍しいものなので、一度利用してみてください。もちろん通行無料です！

撮影：日本物理探鑛株式会社 山岸正志

参考文献：「安治川トンネル・川底に行く」

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~slycrow/myweb/ajikawافر.htm>

：「大阪市 安治川隧道」

<http://www.city.osaka.lg.jp/konohana/page/0000001459.html>

：「(社) 建設コンサルタンツ協会のサイト」

http://www.jcca.or.jp/kaishi/232/232_dobokuisan.pdf